

◎『すべて神の御霊に導かれる者は、神の子供である。』(ロマ書第8章14節)

# 新『教会通信』(2024年4月)

☆(聖書に今日を聞く)☆

伊豆イエス之御霊教会

牧師 三崎 絃

伊東市十足324-37

TEL 0557-45-3692

FAX 0557-45-7081

<http://izukogen.wonderful.to>

ハレルヤ!

唯一にして天地・萬物の創造主、我らの贖い主なる主イエス・キリスト様の尊き聖名を心一杯に崇めまして、感謝と讃美をお献げいたします。

◎『心は萬物よりも偽る者にして甚だ悪しし誰か是を知るをえんや』  
(エレミヤ記第17章9節)

冒頭から、いきなり人間性を否定するような聖言となって仕舞いました。

上記に記しました聖言のエレミヤ記は、52章もの長き章文に亘っており、その内容は主にイスラエルの分裂王国時代後期の南朝ユダに関する預言と、王国の預言者並びに国民全体の神様への造反・反抗の歴史、それに対する神様の激しいお怒りの対応が克明に示されております。

それら神様への造反の詳しい有様に接しておりますと、現代、我らが見聞きする総ての人類が当たり前のように取り入れ、振る舞っている態様と、寸分も変わらないと申しても過言ではありませんまい。

それだけに遠い大昔の出来事としてでは無く、ごくごく身近に見聞き得る出来事として、自らも又それら日常の仕業・行為を神様から責められる立場に在るのでは?、との畏れに駆り立てられて参ります。

そもそも何故イスラエルの人々は、神様に逆らって生きるように成ったのでありましようか。

否、我々異邦人と言われるユダヤ人以外の人間も、神様が忌み嫌われる悪しき方向へとドブプリと浸かって仕舞っているのでしょうか。

人類創造の折、神様が人間の始祖アダムとエバとに向かって警告なさっておられた事が一つだけありました。

それは彼らに住まいとして与えられていた“エデンの園”に在る総ての植物の木の実はどれでも食しても良いがだた一つ

◎『然ど善悪を知るの樹は汝その果を食らうべからず  
汝これを食らう日には必ず死ぬべければなり』  
(創世記第2章17節)

後の世に人類の《原罪》と言われるアダムとエバの犯した基である禁断の樹の実即ち“善悪を知るの樹”は、それを食すると、エデンの園に於いては全く関知する事の無かった“善”と“悪”なる事象が存在する場所に追放される事を意味しており、それに由って人は必ず死なねばならない事が事前に警告されておりました。

天地創造の神様は“善”であられますが“悪”は悪魔つまりサタンの存在を意味しております。

◎『**婦樹を見れば食らうに善く目に美しく且つ智慧からん為に  
慕わしき樹なるによりて遂に其の果実を取りて食らい  
また之を己と偕なる夫に與ければ彼食えり**』

### (創世記第3章6節)

最初に食指を動かしたのは妻のエバの方で、その“禁断の木の実”は、如何にも美味しそうで、綺麗で、その上食べたら賢くなる為には“慕わしき樹なるによりて”どうしても食べたくなり、思わずその果実に手を伸ばし、次いで夫のアダムにも與えて食べさせたと言う事であります。

此処で着目せねばならない事は、人類の元祖二人の目と心に“智慧からん為に慕わしき樹の果実”と映った事であります。

神様に逆らって此の地上に墮とされた二人は、先ず自らの空腹を満たす為に働かねばなりません。手当たり次第口にする物を探してほっつき歩いて苦労したものと思われまゝ。やがて畑を耕す智慧が出て来たでしょうし、その為の便利な用具を考え出した事でしょう。

彼らには確かに智慧が働き始めましたが、その環境には常にサタン(悪魔)が目を見せ彷徨っておりました。

二人の間に男子二名が与えられますが、此の通信3月号に記した如くに兄は殺人者、弟は被害者となります。(創世記第4章1節以下)

更には、次にアダム一族の長となるべき人物は、神様のお厳しい警告を守る事が出来ず罪を犯した父親アダムに似た像(性格)を持って誕生した事が同じ創世記第5章1節～3節に記されております。

記述が前後致しましたが、神様が人間の始祖アダムとエバの創造に当たり、神様御自らの像(性格)に似た物として創られたと記されております。

そこで最も大切な事は、創世記第2章7節に記された“エホバ神土と塵を以て人を造り生氣をその鼻に吹き入れ給えり人即ち生靈となりぬ”とあり、地上に生きる人が死亡しますとその身体は土に戻って行く事は承知の事実であります。同時に人間には永遠に生きる神様の霊が吹き入れられておりました事に注目して下さい。

僕が此処で申し上げたき事柄は、人間の生きている限り知恵を絞り出し前進している姿がありますが、其処には必ずサタンも“善”の面持ちをして帯同して働き掛けていると言う事があります。

結論を申しますと、神様が<sup>つく</sup>お創りになられました諸々の天体を始めとして我らの身の回りの凡ての物は、みな必要不可欠にして無くてはならぬ物ばかりであります。現代の世相を見渡しますに人類が発明発見して来た様々な智慧の<sup>はつろ</sup>発露と言える近代的産物には、果たして人類の<sup>しふく</sup>至福の為に必要であったのかと言うと、首を<sup>かし</sup>傾げざるを得ません。

上記までを記してその翌4月3日朝、<sup>しもべ</sup>僕が遅い朝食を取りながら朝のニュースを観ておりますと、突然テレビの司会者が<sup>うろた</sup>狼狽えた様子で津波警報を叫び始めました。台湾東部・花蓮県近海に於けるマグニチュード7.7の地震余波としての津波警報が、沖縄県の<sup>さきしま</sup>先島諸島に発令されました。

<sup>とつさ</sup>咄嗟に、副牧師と二人でお祈りをお献げし始めました。

先島諸島には、与那国島・八重山・宮古島に我らと同じ主イエス様の御霊を戴き正しく聖書通りに主イエス様を<sup>あが</sup>崇めるイエス之御霊教会が在り、それぞれの教会とは親しくさせて戴いております。

今年は元日早々に石川県能登半島に大きな地震があり、その後の一向に<sup>ふつこう</sup>復興が<sup>はかど</sup>捗らない様子がニュースに成らない日はありません。

幸いに沖縄への津波は、午後には解除となり被害も無かったようでホットしておりますが、台湾の地震被害の方は、六十秒以上にも亘る大きな揺れを<sup>へや</sup>部屋の内<sup>てい</sup>で必死の体で受けている住民の様子、<sup>けいしや</sup>傾斜した巨大ビルや山々の崩壊による<sup>ふんじん</sup>粉塵のすぎましきには驚くばかりで、……心が痛みます。

人間の知恵と能力を持ってして、自然災害を防ぐ事は不可能であります。

我が国の地下には地震を起こすプレートや富士山の如き活火山の<sup>もとい</sup>噴火の基と成るマグマの層が存在し、それらの予報が常に<sup>な</sup>為されておりますが、その内容と言え、<sup>な</sup>“三十年以内に70パーセント”との決まり文言に慣れっこに成っているのが現状であります。…が今回のような、いつ<sup>なんどき</sup>何時、それ以上の<sup>じんだい</sup>甚大な災害が身边に起こらぬとも限らない事に今一度心を向けて、<sup>みことば</sup>聖書の聖言に向かつて<sup>けんきよ</sup>謙虚に<sup>はいちよう</sup>拝見・拝聴する必要があります。

通常、人間が<sup>かいま</sup>垣間見る事の出来ない地下では、刻々と地核が<sup>やくどう</sup>変動し躍動し続けているのが現実であります。

さて、社会の中には常に<sup>くし</sup>知恵を駆使して、出来るだけ便利に出来るだけ快適に生活出来るようにと<sup>くとう</sup>悪戦苦闘している人々がおります。

確かに一時代前には想像も付かなかった便利な品物が、我らの身の<sup>まわ</sup>周りには<sup>あふ</sup>溢れている事は事実であります。

八十路の半ばを迎えます<sup>しもべ</sup>僕の物心が付くと共にテレビ放映が始まり、電話も進歩して携帯となり、今では小さなスマホにその両方が収まっておりますし、スマホの機能その物の発展には驚くばかりであります。

しかし、<sup>しもべ</sup>僕には不案内な処ではありますがSNSやTiKToKなど新しいコミュニケーション文化にも<sup>へいがい</sup>反面の弊害が広がり伝えられている昨今であります。

多機能に亘るAI(人工頭脳)の優秀な機能に関しましても、その仕様の仕方による弊害を説く話題が頻繁に取り上げられておりますし、ドローンなる物も、上空からの撮影には大変便利ですが、ロシアがウクライナとの戦闘に自動操縦のドローン航空機に爆薬を積んで、自軍兵士に損害の無い殺戮兵器として用いている事を連日メディアが取り上げております。

ニュースに取り上げられるウクライナやイスラエルガザ地区の壮絶な戦いの様子を目にしますと、其処に映し出される爆撃の基と成っている爆薬(ダイナマイト)の発明者であるノーベルなる人物が思い起こされます。

ノーベルは、トンネルの施設工事や石炭や石油の採掘工事などの作業を能率良くスピーディーに運ぶ為にダイナマイトを発明し、その時代に斬新な働きを為す大きな業績を上げ莫大な資産を手に入れた人物でした。

しかし、やがて兵器として使用されるようになり、大量殺戮へと戦争を激化させている現実に、彼は大変に思い悩んだと言われます。

“死の商人”とマスコミに取り上げられた事にショックを受けて、科学や芸術や平和への貢献者に与えられるノーベル賞を設立したとの逸話があります。

人間の知恵の裏にはサタンが伴っており、思念の結果出来上がった物品は、矛盾を孕む展開と成ります。

冒頭の聖句に戻します。

◎『心は 萬物よりも偽る者にして甚だ悪しし誰か是を知るをえんや』

何故、“心は 萬物よりも偽る物”と成ったのか、人の“心”には、神様に逆らうサタンが取り付いて働いている、と言う事を此処までに学んで参りました。

そこで神様は、こうも仰有っておられます。

◎『すべての操守べき物よりもまさりて汝の心を守れ  
そは生命の流れこれより出づればなり』

(箴言第4章23節)

確かに人の“心”は、その者の全人生を司るものである事は、誰にでも理解し得る処であります。しかし、どのようにすれば神様の仰有るような“善き心”を継続させて、それを保守し続ける事が出来るのか？

◎『汝等その行いし諸々の罪を棄去り 新しき心と靈魂を起こすべし』

イスラエルの家よ汝らなんぞ死ぬべけんや

我は死者の死ぬるを好まざるなり 然ば汝ら悔いて生きよ

主エホバこれを言う』

(エゼキエル書第18章31, 32節)

神様のみ前に罪を犯し、その罪を悔る事無く、幾度も罪を繰り返す者を神様は決してお許しにならず、その者には死(第二の死即ゲヘナ逝きを意味する)が与えられると言われますが、しかし我らの神様は人々をその死に追いやられる事を大変に嫌っておられ、時が参

りましたら皆こぞって神様の御国へと携え上げられ、永世を共にする事を期待しておられると仰有る御方であられます。

罪深き私達に永遠の生命を与える為に、愛する独児・主キリスト・イエス様を此の地上に遣わされ、罪無きキリスト様を我らの罪の贖いとして、あの十字架に生贄として架かられる事をお許しになられた御方であられます。ハレルヤ！ ハレルヤ！

我らの信じる神様は、《愛》そのものであられます。

主イエス様には、我ら地上の人類総てに対する大きなご計画の約束がおありで、その為に或る条件が満たされる日を待っておいでであられます。

その神様が仰有っておられる聖言であります。

◎『主その約束を果たすに遅きは、或人の遅しと思うが如きにあらず、  
ただ一人も亡ぶるをも望み給わず、  
凡ての人の悔改に至らんことを望みて汝等を永く忍び給うなり。』

(ペテロ後書第3章9節)

先に“新しき心と靈魂を起すべし”とあります如くに、これはアダムとエバには与えられていた神様の霊、つまり聖霊・御霊様の事を指しており、主イエス・キリスト様のあの十字架の御業に由って開かれました新しい御救いであり、《水と霊のバプテスマ》(ヨハネ3:5他)を頂戴して新生する事を指しておられます。

或いは他人は言うかも知れません。

旧約聖書エゼキエル書に記されたイスラエル人に向かって認められた聖言“新しき心と靈魂を起すべし”であるから、私達とは無関係ではないのか？と。

その方々に申し上げておきます。新約聖書に認められた“神のイスラエル”(ガラテヤ6:16)と“天のエルサレム”(ヘブル12:22)、此の二カ所の聖言は、由緒正しき現代の我らの教会を示しております。

ロマ書第9章には、み救いに与る人物に付いて、イスラエルから出た者が皆イスラエルでは無い(ロマ9:6)とあり、その文章の後半にはこう記されております。

◎『この憐憫の器は我等にして、ユダヤ人の中よりのみならず、  
異邦人の中よりも召し給いしものなり。』

(ロマ書第9章24節)

さて現代の世相に目を留めて参ります。

世界は動いております。

此の四月五日、金曜日は我らに取って安息日の備え日であります。

僕は夜分11時を過ぎる頃まで聖書に目を通しており、休むべく床に伏して何気なく週末のニュースを見ようとNHKを入れますと、そこには四十年前に放映された“核戦争後の地球”なる映像が写し出されておりました。

核戦争の危機が迫っていた当時の番組の再放映でありました。

しかしその映像の生々しさには、思わず眠気も霧消しておりました。

仮想の映像ではありますが、地上での核戦争が勃発し北半球の何カ所かで核爆発が起き、その汚れた核の粉塵は蒸気と共に宇宙圏にまで達し、二三日後には南半球をも包み込んで太陽の光を遮断し、総ての生物や植物も死に絶え(核シェルターに逃げ込んだ人も)、やがて生物が誕生する6億年前の様相を呈する地球になると言う結末でありました。

たかだか何発かの爆弾で、我らが唯一棲める此の地球を壊滅して仕舞うと言う警告が込められた映像と言えましょう。

何で今更、との思いもありますが、現在地上に棲む私達の環境には確かに原子力の恐怖が付き纏っております。

原子という極小な核の世界を探り当て、その産物である製品の数発程度で我らに与えられた此の地球は何も無くなるという怪物を作り出した人間の知恵を、褒め称える人は、…さすがに居りますまい。

四月十五日、新潟の三条市では摂氏35.5度という四月には嘗て無い真夏日となり観測史上の記録を更新したとか。

勿論わが国ばかりでは無く、世界中が高温のみか集中豪雨や異常乾燥などの異常気象に覆われ、今後の成り行きに心を痛めているのが現状でありましょう。

神様が我ら人類にお持ちのご計画に付いて先に一言申しましたが、神様はご自身でお創りになられた此の地上を一度綺麗に清算なされると仰有っております。

近來、人々の口を通して“世界の終末”“此の世の終わり”なる言葉が聞かれるように成りました。

確かに聖書に示された終末の動静は、世相の中に顕れて来ております。

多数の一般人も知識者達も、彼らが想定する“世の終わり”は、国々の政治的思想・社会的思想の相違に依る紛争を起因とすると思われがちではありますが、主イエス様がお経論の中で仰有っております内容には、イスラエルを中心とした終末が描かれております。

世界各国のイデオロギーの相違に依る紛争も、異常気象も、人類愛の崩壊も偽預言者(偽の宗教者)が多く起こる事も、その終末に付いて預言されたマタイ傳第24章の聖言“されど未だ終にはあらず”(マタイ24:6)、“此等はみな産の苦難の始なり”(マタイ24:8)とあります如くに、最終末に至る過程に起こる現象にしか過ぎません。

確かに預言の様相は、現実に顕れて来ております。

私たち神様に創られた人間は、神様の仰有る聖言を信じて従って行くなれば、如何なる世相に在りましても最終的に神様が総ての艱難の中から救い護って下さいます。

それでも私達は、その時が参りますまで生きて行かねばなりません。

主イエス様の十字架に於いてお流し下さった御血潮による正しい洗礼を受けて、神様の霊魂であられる御霊・聖霊様を頂戴し、主イエス様と共に歩む生活を心掛ける事があります。

◎『汝こころを尽くして神に依り頼め 己の聡明に依ることなかれ

汝すべての途にて神を認めよ さらば汝の途を直くし給うべし

自ら<sup>み</sup>見て<sup>さとし</sup>聡明とする<sup>なか</sup>勿れ 神を<sup>おそ</sup>畏れて悪を離れよ』

(箴言第3章5～7節)

※『人生の<sup>みち</sup>総ての<sup>みち</sup>途に神様のご存在を認め、自身の<sup>さと</sup>聡明に<sup>しん</sup>信を置くこと無く、神様に依り頼み、神様を<sup>おそ</sup>畏れ<sup>うやま</sup>敬い、サタンの<sup>みち</sup>途を離れよ。』

教会では此の通信を手<sup>みち</sup>にされる方の上に、主イエス様からの御祝福が豊かに注がれますようにお祈りをお献げしております。

ハレルヤ！ ハレルヤ！ 栄光主に在れ！ 栄光主に在れ！

(2024年4月16日 伊豆イエス之御霊教会 牧師 三崎 紘 文責)